

教育開発調査活動費制度について

本学の教育の質的向上のための積極的な調査活動を支援するために、本学専任教職員を対象として、教育開発に関する各種学外企画の参加に必要な旅費等の費用補助を行う制度を設けています。補助対象となる催しはメーリングリスト及び、以下のページで紹介しています。

メーリングリストへの登録を希望される場合は
学習支援・教育開発センター事務室までご連絡ください。

研究会・研修会のご案内 <https://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html>

教育方法・教材開発費制度について

本学における授業改善をさらに促進するために、専任教職員を対象として、新たな教育方法および教材開発に必要な費用全般を補助する「教育方法・教材開発費制度」を設け、毎年度秋学期に次年度の開発費の申請を受け付けています。制度の利用を希望される方は、以下詳細をご覧ください、受付期間に申請をお願いします。

※2021年度の受付期間は終了しました。

本制度の詳細を掲載しています。 [教育方法・教材開発費制度](https://clf.doshisha.ac.jp/support/development/materials.html) <https://clf.doshisha.ac.jp/support/development/materials.html>

教育方法・教材開発費制度を利用して開発された教材の一部は、
本学オープンコースウェア上で公開しています。 [同志社大学オープンコースウェア](https://clf.doshisha.ac.jp/opencourse/opencourse.html) <https://clf.doshisha.ac.jp/opencourse/opencourse.html>

COLUMN

大学教育の今

新型コロナウイルス感染症と大学

2020年、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大によって、人々の生活は大きく変わることになった。大学もこの感染症に翻弄された。2020年春の卒業式や入学式の中止から始まり、キャンパスを閉鎖し授業開始の時期をGW明けまで繰り下げる大学が続出した。その一方で、学生の学びを止めてはならないことも強く意識された。同志社大学も、2020年春の緊急事態宣言発令から春学期の大半は入構制限を実施し、学生はキャンパスに入ることができなかったが、比較的早くに開講に踏み切った。ただそれは、学生にとっても教職員にとっても混乱と苦闘の幕開けであった。

近年、ICT(Information and Communication Technology: 情報通信技術)の教育活用が謳われていた。ICTを取り入れたら授業にどのような可能性が開くのかという夢を語るようなイメージがそこにはあった。これが、コロナ対応のため、ICTの導入で従来の授業に代替できるのが間われ、学生や教職員さらに大学に、現実にICTを使いこなすことが求められることになった。授業や試験、研究会や会議等々、多くの事柄がドラスティックに再構築されていくことになったのである。

さて、我々大学関係者との厄介な感染症との対峙も早一年が過ぎた。コロナ以前の日常が取り戻せたといえる状況にはない。未だ残る課題を一つ一つつぶしていく必要もある。しかし幾多のトライアンドエラーで訪いできた成果そのものはしっかりと認識した上で、さらにその先の夢を語ることも必要ではないかと思う。われわれ大学人にはコロナ疲れをしているような暇はなさそうである。

学習支援・教育開発センター所長 岡田 幸宏

2020年度スタッフ一覧

所長	岡田 幸宏
准教授	宮田 尚子 澤 宏司 辻 高明
助教	矢内 真理子
アカデミック・インストラクター	趙 智英 岩崎 友明
事務長	瀬川 真理
係長	鎌田 大輝
係員	鈴木 梨加 山口 夏奈 野口 奈々 樫 舞

「シーエルエフ レポート Vol.32」

同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日: 2021年3月31日

発行者: 同志社大学 学習支援・教育開発センター
京都市上京区今出川通烏丸東入 明德館1F

[Tel] 075-251-3277 [Fax] 075-251-3025

[E-mail] ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp
<https://clf.doshisha.ac.jp/>

CLF

同志社大学

学習支援・教育開発センター レポート

REPORT

Center for Learning support and Faculty development report

Vol.

32

2021.3

CONTENTS

ページ

2	学習支援・教育開発センターについて
3	開催報告 新任教員研修会 TA研修会 2019年度教育方法・教材開発費制度利用者(B区分)による成果報告会
4	大学入学準備講座
5	FD活動報告 (法学部、経済学部、グローバル・コミュニケーション学部)
6	ラーニング・コモンズ運営状況ーコロナ禍での運営ー
10	2020年度 各種学生調査報告
12	教育開発調査活動費制度について 教育方法・教材開発費制度について Column 大学教育の今 2020年度スタッフ一覧

CLF REPORT

Center for Learning support and Faculty development report

学習支援・教育開発センターについて

設置の趣旨

本センターは、本学における全学的な学習支援施策の企画及び実施、全学的な教育施策の企画及び開発、教育活動の継続的な改善の推進及び支援により、大学教育の充実と発展に寄与することを目的として設置されています。

事業内容

1. 全学に共通する学習支援プログラムの企画及び実施
2. ラーニング・コモন্ズの運営及び管理
3. 全学に共通する教育システムの企画及び開発
4. 教育内容・方法の改善に関わる全学的な企画及び推進
5. 全学に関わる教育効果の評価方法の開発及び実施
6. 教育活動の支援体制の整備
7. 大学教育に関する図書、資料などの収集
8. その他必要な事項

2020年度設置部会

各事業について専門的に検討するため、2020年度は以下の部会を設置しました。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、メールでの審議・報告を行い、各種取り組みを推進してまいりました。

FD支援部会

設置の趣旨

教育内容、授業方法、教育効果に関わる全学的な企画の検討及び教育改善の推進

活動報告

今年度の本部会は、既に決定済みであった2020年度の「学生による授業評価アンケート」の実施要領および質問項目について、今年度春学期の全ての授業が原則ネット配信になったことにもない、急速実施方法や質問項目の見直しを行うことから始まりました。

また、既に決定済みであった2020年度の「大学入学準備講座」の実施要領についても、新型コロナウイルス感染症の関係により、再度検討した結果、実施方法を変更することになりました。

例年の審議事項である「キャンパスライフに関するアンケート調査」、「シラバス記載方針」、「新任教員研修会」についても検討しましたが、新型コロナウイルス感染症を考慮し、それぞれ内容や実施方法について見直しを行いました。

2021年度の「シラバス記載方針」については、次年度もネット配信授業が行われることをふまえ、授業実施方法、授業で利用するツールなども記載するよう変更しました。

また、今年度は、コロナ禍での学生の状況を把握するために、臨時的な学生調査を2回（「ネット配信授業受講に関するアンケート調査」、「コロナ禍における授業に関するアンケート調査」）実施しましたが、本部会で調査項目について検討を行ったほか、新たに制定した「学習支援・教育開発センターが所管する学生を対象とする調査の回収データ管理・運用規則」の検討も行いました。

2020年度の「キャンパスライフに関するアンケート調査」は、上記の臨時調査の第3次調査としても位置付けて実施することとし、調査項目の見直しを行いました。

そのほか2021年度の「教育方法・教材開発費制度」についても検討し、募集を行いました。今回は応募がありませんでした。

学習支援検討部会

設置の趣旨

学習支援活動および学習支援環境（ラーニング・コモন্ズ等）の運営方法の検討

活動報告

今年度のラーニング・コモন্ズは、新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時閉室、開室時間短縮、利用目的制限など、例年とはかなり異なる運営を行ってきました。

本部会では、コロナ禍におけるラーニング・コモন্ズ入室者数、各エリア利用者数、学習相談件数等の報告を行うとともに、新型コロナウイルス感染症対策として実施した様々なオンラインでの取り組みについての報告も行いました。

そのうえで、いまだ新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない状況において、今後のラーニング・コモন্ズの有効活用や新たな運用などについて、意見交換を行いました。



開催報告

新任教員研修会

例年、本学教員として教育・研究活動に従事していただくうえで、ご理解いただきたい事項について認識を深めていただくことを目的として、新任教員研修会を実施しています。

2020年度は、2019年度途中と2020年度4月に採用された新任教員約80名が研修会の参加対象者でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため集合研修を中止し、代わりに「2019年度新任教員研修会」(2019年4月実施)の動画の視聴をお願いしました。動画視聴後にご協力いただいたアンケート調査の結果から、本研修会が参考になったことがうかがえました。

教職員のページ(本学教職員のみ閲覧可能)に、研修会の動画・資料を引き続き公開していますので、ぜひご覧ください。

動画内容

※各種資料とともに配信

- ① ガバナンス、意思決定の仕組み
- ② 教育活動
- ③ グローバル化の取組
- ④ 学生支援体制
- ⑤ 研究活動
- ⑥ 入学試験業務
- ⑦ 教育・研究倫理について

受講者の声(オンラインアンケートの集計結果より一部抜粋)

動画による視聴であったことは非常に残念でしたが、大学や教育、研究に関してまとまった説明を聞くことができ、大変参考になりました。

同志社にはこのような機会があり有意義でした。自分のペースで視聴できたので、疲れることもなく、かえってよく理解できたように思います。

TA研修会

ティーチング・アシスタント(TA)に任用される大学院生(予定者を含む)を対象として、TA制度の定義・目的、TAの業務内容・心得、キャンパス・ハラスメントの防止、TAの事務手続き等について説明する研修会を2011年度より実施しています。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため集合研修を中止し、TAを務める学生に対し、「2019年度TA研修会」(2019年4月実施)の動画の視聴をお願いしました。

動画内容

※各種資料とともに配信

- TA制度の定義・目的
- TAの業務内容・心得
- キャンパス・ハラスメントの防止
- TAの事務手続き等について

引き続き 研修会の動画・資料を公開しています。

TA研修会 <https://clf.doshisha.ac.jp/ta/ta.html>

2019年度教育方法・教材開発費制度利用者(B区分)による成果報告会

報告者の先生方ご自身で、それぞれ動画を作成いただき、プロジェクトの背景、開発目的、具体的な活動内容、成果、今後の課題などについて詳細に報告していただきました。

報告者	取組内容
梶山 玉香 先生	視聴覚に障がいのある学生が受講する講義における教育方法
伊藤 利明 先生	基礎数学の入学前・リメディアル教育支援法の開発



動画配信期間 2020年11月25日～2021年3月31日

大学入学準備講座

高校生を対象とし、大学における必要な学力レベルを知ってもらうこと、正しい学部選択の機会を与えることを目的とし、「大学入学準備講座」を開講しています。本学教員がそれぞれの専門分野で扱う学問の内容から高校生が興味を持ちそうなテーマを選んで、大学で実際に行われる授業と同じ形式で高校生に講義を行っています。

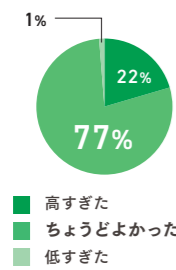
2020年度はオンデマンド配信で開催

2020年度については新型コロナウイルス感染症の影響により、オンデマンド配信による開催となりました。キャンパス内で受講してもらうことはできませんでしたが、オンラインで質問できる機会を設ける等、大学の授業を身近に感じてもらえる工夫をしました。

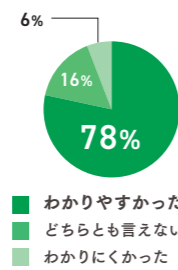
2019年度は29校からご参加いただきましたが、今年度は2倍以上の63校から、多くの高校生にご参加いただきました。受講後のアンケートでは、コロナウイルスの問題がなければキャンパスで受講したかったという声とともに、大学に行かなくても高校や自宅などで受講できてよかった、好きな時間に繰り返し視聴できてよかったとのご意見もいただきました。遠方の高校生には、普段よりも気軽に本学の授業を体験していただける機会になったようです。

アンケート結果

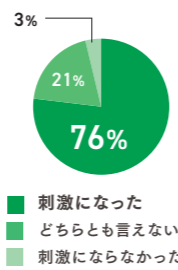
Q. 授業のレベルはどうか？



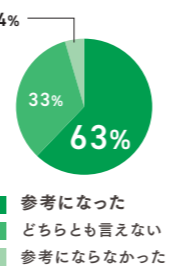
Q. 講師の話し方はどうか？



Q. 高校における勉強の刺激になったか？

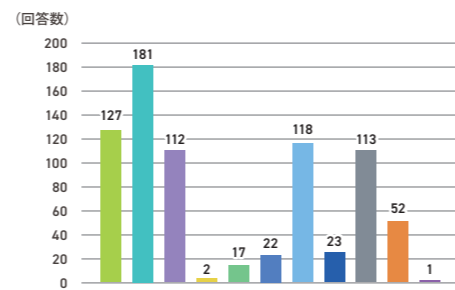


Q. 学部を選択する際の参考になったか？



Q. オンデマンド配信の講義についてどのように感じましたか？(複数回答可)

- 好きな時間に繰り返し視聴できてよかった
- 大学に行かなくても高校や自宅などで受講できてよかった
- コロナウイルスの問題がなければ大学の教室で講義を体験したかった
- リアルタイム配信(決まった日時にライブ中継で受講)の講義の方がよかった
- 画面が見にくかった
- 音声が聞き取りにくかった
- 画面・音声とも問題なく受講できた
- 集中しにくかった
- 集中して受講できた
- 長すぎると感じた
- その他



受講者の声

普段全く気にして生活していないことを統計上で見ることができたり、こういう見方もあるのか、と自分の考えを広げられるいい機会になったと思います。すごく丁寧でわかりやすい説明だったので楽しんで講義を受けることができました。

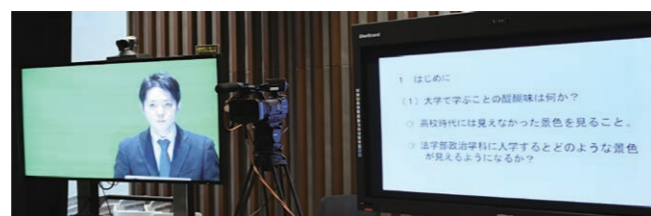
高校在籍中に大学でどのようなことを学ぶのかを体験できたのは自分の将来を決めるのにとっても役立ちましたし、良い経験ができました。大学に行くのが一層楽しみになりました！

何となく普段考えていたことが「学問」という形になって現れた感じで、ああ私が不思議に思っていたのはこういうことだったのか、と自分の思いが次々言語化されて行く感じが興味深かったです。

私は、あと十数年でAIにほとんどの職業が取って代わられると知ってから、進路を考える際に、「これからの時代は理系の人材が必要だから、理系に進むべきだ」という固定概念を持っていました。しかし、文系と理系が融合して社会の役に立っている具体例を挙げていただいたおかげで文系の重要性もよく分かりました。この講義を踏まえた上で、私にあった分野を見つけ、社会の役に立てよう、進路を慎重に考えていきたいと思います。



実際に配信された講義動画のワンシーン



動画収録の様子(講義収録システム使用)

各講義の概要等、詳細を掲載しています。

大学入学準備講座 https://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html

FD活動報告

学部・研究科・センター等がそれぞれ取り組んでいるFD活動の一部を紹介します。

法学部

法学部では、かねてより熱心にFD活動に取り組んできた。第三者評価委員会はその中心的な活動の一つである。おそらく、学部レベルとしてはたいへん「贅沢」に、経済界、学界、官界、メディアなどから錚々たる方々に委員をお願いしてきた。その際、本学法学部出身者でないことを条件とし、女性や外国人の方々にも必ず委員に加わっていただいていた。

2020年暮れに実施した第三者評価委員会では、委員の方々に残念ながら実際の対面授業を見学していただくことはできなかったが、オンライン配信授業をご覧いただき、学部長からもコロナ禍の下での法学部の教育の取り組みについて詳細な報告がなされた。委員からは、人と人の触れ合う教育の重要性についての指摘とともに、今後もオンライン教育をいかに活用していくかという発想、さらにクリティカル・シンキング養成の重要性などについて、貴重な指摘がなされた。

経済学部

2020年度、経済学部では、新型コロナウイルス感染症対応として以下の措置を導入した。

まず、学部オリジナルサイトに学生向けのポータルサイト(「【まとめ】新入生・在学生への重要なお知らせ(新型コロナウイルス感染症に関する経済学部の対応)」)を開設し、一元的に情報発信した。次に、学生の情報環境に関するアンケートを実施し、教員間で情報を共有した。

続いて、新入生対象の開講科目である「基礎演習」において、科目担当者によるMLを作成し情報交換や教務主任からの情報提供を行った。全クラス共通の課題を設定し、学生向けの在宅教材(例:レポートの書き方に関する動画、レポートの雛形)を作成し提供した。また、教員からの要請を受け、授業利用における機関向け電子書籍、剽窃検知ソフトを購入した。さらに、学生を対象として、Wi-Fiルーター貸し出し費用および学内外での印刷費に対する補助を行った他、教員を対象に、春学期オンライン授業についての参考情報を提供した。

また、本年度のFD活動として学習支援・教育開発センターと協働で教育アセスメントに関する覚書を交わし、新カリキュラムの検証等についてのデータ分析を依頼した。この分析結果に関して、年度末にFD講演会を実施する。

グローバル・コミュニケーション学部

2020年の年明け間もなく世界中で猛威を振るい始めた新型コロナウイルス感染症は、大学教育の様々な面にも影響を及ぼしている。グローバル・コミュニケーション学部では、約1年間のStudy Abroad(以下SAと略)が英語コース・中国語コースの2年次生の必修となっており、日本語コースの学生は全員が留学生であるため、今年度のFD活動としては、必然的にパンデミック下のSAや授業形態に関するテーマが選ばれることとなった。

2020年7月28日には「カリキュラム・ポリシー(以下CPと略)と留学」と題したFDワークショップ(Zoom)を開催した。今年度はパンデミックの影響を受け、CPで謳われたSAの実施が困難となり、様々な代替措置を取ってきた。ワークショップでは、CP中のSAを通じた学びに関する記述を批判的に検討し、CPと代替措置との整合性を確認した。

2021年1月19日には、早稲田大学人間科学学術院の向後千春教授をお招きして、講演会「オンライン/対面授業のブレンド化と実施の工夫」(Zoom)を開催した。長年にわたる経験に基づいたオンライン授業の組み立て、オンデマンド型やリアルタイム型など様々なタイプのオンライン授業の活用、オンライン授業と対面授業の組み合わせ等についての知見を共有いただいた。参加者は、オンライン教育をテーマとする講演をオンラインで受講するという状況を経験し、授業者と受講者の両方の立場からオンライン教育を考える良い機会となった。

TOPICS 「授業情報共有」チームの開設について

2020年度春学期が原則ネット配信授業となり、先生方は慣れない形式での授業準備に苦労されました。そのような状況において、先生方からの、授業に関する情報を共有して欲しい、教員同士で意見交換できる場が欲しいといった要望を受けて、授業に関する情報を交換・共有する場として、グループチャット形式でメッセージのやり取りができるMicrosoft Teamsを利用し、「授業情報共有」チームを開設しました。

チームで利用できるチャット機能にて、先生方にコロナ禍において様々な形態で実施された授業や成績評価の方法について、それぞれ工夫した点等を詳細に情報提供いただきました。また、各部署が協力し、職員からも、授業実施に関する大学からの発信情報、ネット配信授業実施時のサポート内容、Microsoft Teams、Zoom等の使い方など、授業実施に役立つ情報を発信しました。

提供された情報に対するの質問や、情報提供依頼にも活用され、利用者が各所属の垣根を越えて、気軽に双方向のコミュニケーションをとりながら、広く情報交換を行うことができました。

2021年3月現在、嘱託講師を含む本学教職員約250人にメンバー登録していただき、引き続き有効活用していただいています。



ラーニング・コモンズ運営状況ーコロナ禍での運営ー

ラーニング・コモンズ(LC)も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020年3月20日から臨時閉室となり、4月13日からは学生の学内への入構制限も実施され、施設が利用できない状況が続きました。

そのような状況下で、当初はLCスタッフ一同もどかしい気持ちでしたが、大学に来ることがかなわず、慣れないオンライン学習に戸惑う学生のために何かできることはないか考えた結果、Office365の機能を活用した「おうちDe LC」の各種オンライン企画がスタートしました。

その後、入構制限の緩和に伴い、LCも利用制限付きで開室を再開し、状況を見ながら利用制限も徐々に緩和していきました。例年対面で行っているセミナーや各種イベントはオンラインで開催し、飛沫感染防止対策を実施してグループ学習を再開するなど、できる限り多くの学習の機会を学生に提供できるよう工夫しました。

今年度はLCの機能をフル活用してもらうことはできませんでしたが、感染予防を徹底しながらも新たな取り組みを実施し、概ね順調に運営することができました。



フェーズごとに見る活動状況

本学では新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4月13日以降学生は原則入構禁止となりました。その後、6月19日以降の春学期期間を4つのフェーズに分けて、段階的に入構制限を緩和しました。LCはフェーズ2、7月10日からの開室再開となり、段階的に利用範囲を拡大しました。各フェーズの活動状況は以下の通りです。

PHASE 1 ~7/9	閉室中の活動 おうちDe LC 学習相談の中止を余儀無くされたため、LCの閉室中から以下の3つのオンライン企画を開始しました。これらは対面学習相談の再開後も継続しています。 大学の学びに役立つ学習支援コンテンツ (2020.4.23リリース) 教員にメールを送るときに失礼にならないような書き方や基本的なレポートの書き方、大学の講義ノートの取り方、大学に必要な情報探索法、数学の勉強に役立つツールなど、大学での学びに役立つ学習支援コンテンツをまとめ、Microsoft One Driveで本学学生向けに公開しました。 オンライン学習相談 (2020.5.12リリース) LC閉室、学内への入構制限が実施される中、これまでアカデミックサポートエリアにて対面で行ってきた学習相談をオンラインで実施し、慣れないオンライン授業での学習に不安を抱いている学生の相談に対応しました。LCの自習利用が可能となった7月下旬までは、教員、アカデミック・インストラクター、ラーニング・アシスタント(LA)が在宅勤務にて各種相談に対応しました。 相談実施方法 ① Microsoft Teamsでのビデオ通話 ② Microsoft Teamsでのチャット ③ 専用Webフォームによる相談 リモート勉強室 (2020.7.1リリース) LCや図書館で感じた誰かが一緒に勉強している感覚、勉強していて気になることがあったらすぐ質問ができる手軽さをオンラインでも提供できないかと考え、Microsoft Teamsのチーム機能を使ってリモート勉強室を開設しました。チームにアクセスすると常にスタッフや同時にアクセスしている学生同士がオンラインでつながり、チャット機能を用いて気軽に質問することができ、そのまま学習相談を申し込んだり、各種オンラインイベントに参加したりすることができます。また、顔を合わせることができないスタッフ同士の交流にも役立ちました。	  
PHASE 2 7/10~27	7/10~ LC開室再開 入構制限緩和 2回目	開室再開 感染防止対策を実施したうえで、両校地LCの開室を再開しました。 感染防止対策：検温(7/27まで)、手指消毒の実施、会話(雑談)の禁止、飲食禁止、マスク装着必須等 利用目的を、DoKoDeMoプリント(利用時間30分以内)、ビデオ通話によるオンライン学習相談、マルチメディアラウンジの利用に限定し、開室しました。
PHASE 3 7/28~8/31	入構制限緩和 3回目	座席数を制限したうえで、個人での学習に限定した自習利用、相談者との間に仕切りを設けて対面での学習相談、プリントステーションの利用を再開しました。会話(雑談)を禁止していることもあり、グループ学習は禁止しました。
PHASE 4 9/1~9/20	入構制限緩和 4回目	座席数を制限したうえで、個人での学習に限定した自習利用、相談者との間に仕切りを設けて対面での学習相談、プリントステーションの利用を再開しました。会話(雑談)を禁止していることもあり、グループ学習は禁止しました。

PHASE 2 7/10~27	7/10~ LC開室再開 入構制限緩和 2回目	開室再開 感染防止対策を実施したうえで、両校地LCの開室を再開しました。 感染防止対策：検温(7/27まで)、手指消毒の実施、会話(雑談)の禁止、飲食禁止、マスク装着必須等 利用目的を、DoKoDeMoプリント(利用時間30分以内)、ビデオ通話によるオンライン学習相談、マルチメディアラウンジの利用に限定し、開室しました。	両校地のオンライン学習相談ブース  
PHASE 3 7/28~8/31	入構制限緩和 3回目	座席数を制限したうえで、個人での学習に限定した自習利用、相談者との間に仕切りを設けて対面での学習相談、プリントステーションの利用を再開しました。会話(雑談)を禁止していることもあり、グループ学習は禁止しました。	良心館LCでの対面学習相談 感染防止のためパーティションを設置  
PHASE 4 9/1~9/20	入構制限緩和 4回目	座席数を制限したうえで、個人での学習に限定した自習利用、相談者との間に仕切りを設けて対面での学習相談、プリントステーションの利用を再開しました。会話(雑談)を禁止していることもあり、グループ学習は禁止しました。	ラーネット記念図書館LCでの対面学習相談 アクティブボードやモニターを活用して相談者との距離を確保  
秋学期開講 9/21~	学生のキャンパス内入構全面再開 対面授業再開	対面授業の部分的再開にともない、多くの学生がキャンパスを訪れることが予想される中、利用者の入れ替わりが多くなることを想定し、利用者が自身の利用スペースを消毒できるよう、アルコール除菌ティッシュを各所に配置しました。 座席数の制限、グループ学習の禁止は継続したまま様子を見ることにしました。予約利用を停止していた両校地LC内インフォダイナーを活用して、双方向オンライン型授業受講のための発声・発話可能スペースを予約制でもうけたところ、連日多くの利用がありました。 対面学習相談も工夫し、ICT機器の活用により、相談者との距離を保ちつつも直感的に情報が伝わりやすい方法を取り入れました。	対面学習相談でのICT機器活用 YogabookでLAが手書きした内容を即座に相談者に向けられたサブディスプレイに表示  アルコール除菌ティッシュを各所に配置  双方向オンライン型授業受講スペース 
PHASE 1 ~7/9	3/20~ LC閉室 4/13~ 学生のキャンパス内入構禁止 6/1~ 入構制限緩和 1回目	アカデミックスキルセミナーオンライン 日程：2020年11月～ 時間：12:30~13:00または13:15~13:45 毎年度開催しているアカデミックスキルセミナーですが、2020年度春学期はLC閉室のため開催できず、秋学期からオンラインで開催しました(11月27日(金)開催のみ予約制で対面とオンラインを併用)。また、一部のテーマはYouTubeでの配信も行いました。	メイリオだけに明瞭!! アカデミックスキルセミナー プレゼンの方法 ▲ セミナーをYouTubeで配信 
PHASE 2 7/10~27	7/10~ LC開室再開 入構制限緩和 2回目	グループ学習再開 (11/13~) 両校地のインフォダイナーに、飛沫感染防止対策のためのパーティションとビニールカーテンを設置したうえで、グループ学習を再開しました(各校地7ブース)。学生同士が意見を交わす声が聞こえ、LCらしさが戻ってきました。	両校地LCインフォダイナーのグループ学習可能エリア 

年間をととしての利用者数

良心館LCの利用者数をまとめたのが、下のグラフです。

図1はフェーズ2から4までの各期間のLC入室者数です。フェーズの移行に伴って、利用者数が徐々に増加していることが分かります。また、図2は秋学期の月ごとの入室者数です。対面とネット配信の2形態で授業が行われたことに伴い、急速に利用者数が増えています。

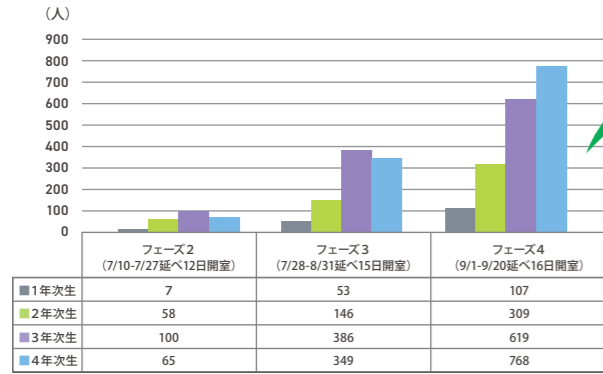


図1 良心館LC フェーズ別入室者数 (7/10~9/20)

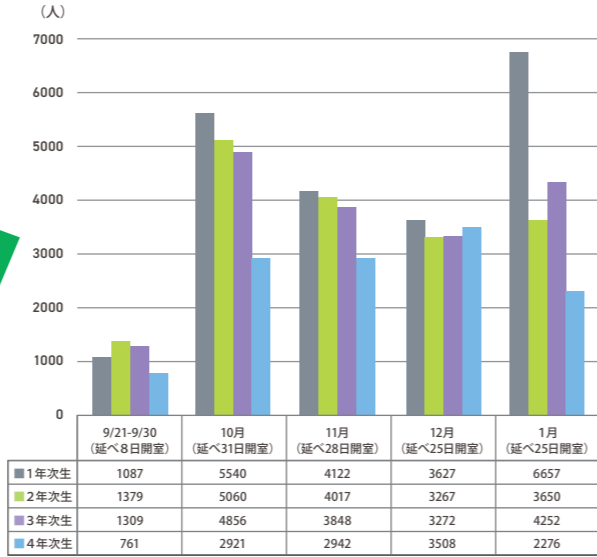


図2 良心館LC 秋学期9/21~1/31入室者数(月合計)

※ラーネット記念図書館LCは、ICカード入退館ゲートによる入室者計測ができないため不掲載

学習相談利用者数

今年度は前述のとおり、LC閉室中の5月12日からオンラインで学習相談を行い、対面での学習相談は7月28日から再開しました。

オンライン学習相談の予約者数は延べ74人でした。対応方法の内訳は、メール31人、ビデオ通話25人、チャット18人。もっとも多い相談はレポートに関する相談(38件)で、最も利用が多かった学年は1年生(29人)でした。

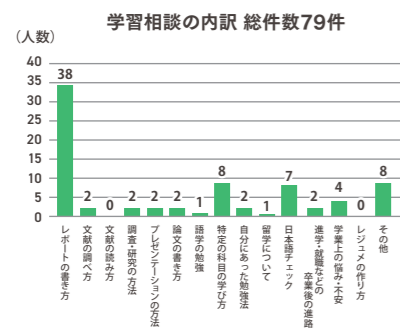
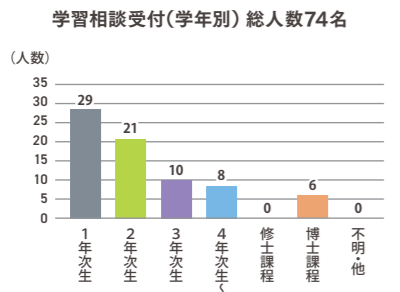
リモート勉強室から学習相談を利用した人数は、延べ21人でした。

対面での学習相談については、良心館LCアカデミックサポートエリアでの延べ相談者数は284人で、もっとも多い相談はレポートに関する相談(69件)で、次に多かったのは調査・研究の方法が62件でした。最も利用が多い学年は4年生(105人)でした。

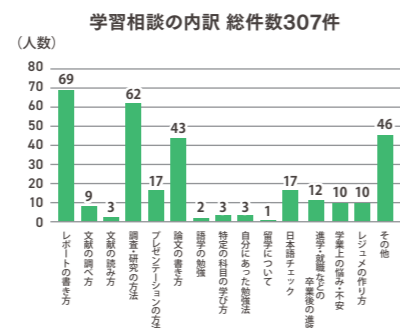
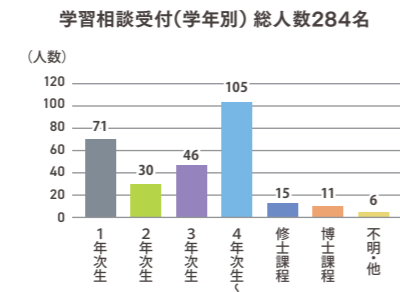
ラーネット記念図書館LCアカデミックサポートエリアでの延べ相談者数は314人でした。もっとも多い相談は特定の科目の学び方に関する相談(198件)で、次に多かったのは調査・研究の方法が61件でした。最も利用が多い学年は4年生(108人)でした。

春学期は7月27日まで対面での学習相談を見合わせていたため、ほとんどオンライン相談のニーズのみでしたが、秋学期に入ると、両校地LCアカデミックサポートエリアでの対面相談がニーズの中心となり、直接会って話すことを相談者は求めていることがうかがえました。オンライン相談は、利用人数こそ少ないものの、来日できていない留学生が海外から申し込むケースもあり、一定の意義があったといえます。

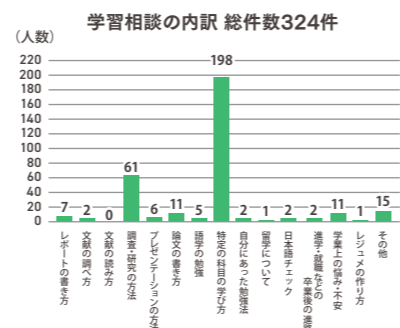
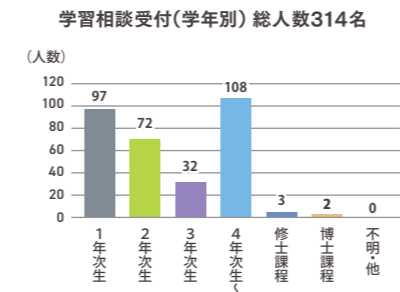
オンライン学習相談内訳 (5月12日~1月31日累積、8月8日~9月22日、12月29日~1月5日休止)



良心館LC対面学習相談内訳 (7月28日~1月31日累積、8月8日~31日、12月29日~1月5日休止)



ラーネット記念図書館LC対面学習相談内訳 (7月28日~1月31日累積、8月8日~31日、12月29日~1月5日休止)



TOPICS LAの活動

臨時閉室中、LA(ラーニング・アシスタント)は教員やアカデミック・インストラクターの指導のもと、在宅勤務により、オンライン研修受講や学習相談対応、オンラインイベントへの登壇などをおして研鑽を積んでくれました。LCでの勤務再開後はより精力的に、3密を回避するための仕様のレイアウト変更や、学生向けの自主学習場所の案内リーフレット作成、様々なオンライン開催イベントの企画・運営などに尽力してくれました。

研修

LA勤務研修 (Microsoft Teamsで開催)

日時 5/7(木) 13:00~15:00

オンライン講義体験会 (Microsoft Teamsで開催)

日時 6/8(月) 17:15~18:45

講師 学習支援・教育開発センター所長 岡田幸宏教授

テーマ 大学の教員

LAが実際にオンライン講義を受講する機会を設け、オンライン特有の事項への対応能力を養うことを目標として開催しました。

LA研修 (Microsoft Teamsで開催)

日時 7/9(木)、7/15(水) 17:15~18:45

※7/15は7/9に実施の動画視聴

講師 法学部 山根崇邦 教授

テーマ 学習相談時に知っておくと役立つ著作権法の知識

LAフォローアップ研修

京田辺

日時 10/27(火) 18:00~20:00

今出川

日時 10/29(木) 18:00~20:00

主なLA登壇イベント

コモンズランチ会 (Microsoft Teamsにてオンライン開催およびYoutube配信)

対象 本学学生、教職員

学生が、若手研究者でもあるLAと気軽に交流する機会を提供することを目的に、複数回開催しました。ゲストスピーカーであるLAの研究テーマを始め、研究手法や学生生活についても語ってもらいました。登壇したLAそれぞれにとっては、自身の研究テーマについて大勢に向けてアウトプットできたことは良い経験になりました。

① お金と嘘

日時 7/13(月) 12:20~13:00

② スターウォーズから見る神学と哲学

日時 11/19(木) 12:20~13:00

③ 音で見る? 生きもの研究

日時 1/19(火) 第1部 12:30~13:00
第2部 16:30~17:00



まずびた! オンライン (Microsoft Teamsにて開催)

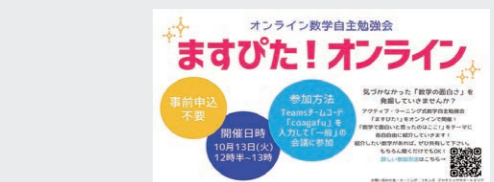
対象 本学学生

アクティブ・ラーニング式数学自主勉強会として、「気付かなかった数学の面白さ」を発掘することを目的に、LAが運営を主導して複数回開催されました。

主なテーマ:「数学で面白いと思ったのはここ!」「大学生の1%も知らないかもしれない! 数学の世界」「にわか微分で経済しよ?」「三角関数っていつ使うん?」「科学の公式を楽しもう!」

各種発行物

コモンズプレス Vol.12・13・14
自主学習場所の案内リーフレット



ラーニング・コモンズHP <https://ryoshinkan-ic.doshisha.ac.jp>

2020年度 各種 学生調査報告



2020年度春学期、全ての授業を原則ネット配信で実施することとなり、学生の学習・研究環境や学問への取り組み状況、生活状況が従来とは大きく異なることが予想されたため、全学部生・大学院生を対象に、臨時の学生調査「ネット配信授業受講に関するアンケート調査」、「コロナ禍における授業に関するアンケート調査」を行いました。
集まった回答は集計・分析のうえ、各学部・研究科等にフィードバックされ、授業運営等に活用されました。



また、例年、1年次生と3年次生を対象に「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施していますが、2020年度の本調査については上記の臨時調査の延長として位置づけ、2年次生も対象に追加して実施しました。
2020年度からは新たに、卒業生を対象とした「『学びのふり返り』卒業時調査」を開始しました。

各調査概要

ネット配信授業受講に関するアンケート調査

- 実施方法** WEB調査 (Microsoft Forms)
- 調査対象** 全正規学生 (学部生・大学院生)
- 回答期間** 2020年6月26日(金)4:00 ~7月3日(金)4:00

コロナ禍における授業に関するアンケート調査

- 実施方法** WEB調査 (Microsoft Forms)
- 調査対象** 全正規学生 (学部生・大学院生)
- 回答期間** 2020年10月1日(木)4:00 ~10月8日(木)4:00

キャンパスライフに関するアンケート調査

- 実施方法** WEB調査(e-class)
- 調査対象** 学部1年次~3年次の在学生全員 (学部2018~2020年度生)
- 回答期間** 2021年1月25日(月)9:30 ~2月24日(水)24:00

「学びのふり返り」卒業時調査

「同志社大学におけるアセスメント・ポリシーの策定に関する基本方針」において、学士課程は卒業年度の学生調査実施が必須となったこととともない、学習支援・教育開発センターでは全学的に利用可能な卒業年度の学生調査「『学びのふり返り』卒業時調査」を作成しました。
本調査は、学生が教育課程を通して学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げられた資質・能力を獲得できたかを把握するための一つ的手段として活用しますが、既存の「キャンパスライフに関するアンケート調査」との経年分析も可能となるように作成しています。

- 実施方法** WEB調査(Microsoft Forms)、調査票併用
- 調査対象** 本調査を卒業時調査に利用する学部所属の卒業予定学生
- 回答期間** 卒業論文提出時期~卒業式当日の範囲で学部毎に設定して実施

2020年度臨時学生調査「コロナ禍における授業に関するアンケート調査」結果

2020年、世界中に広がった新型コロナによって、「教室に学生と教員が集まって対面で授業をおこなう」という、今まで「あたりまえ」だと思われていた授業風景は一変しました。本学は、WEB会議アプリを使ったリアルタイム配信、事前に収録した講義動画のオンデマンド配信、インターネットをつうじた資料・課題の提示といった方法を取り入れながら、2020年度春学期の授業を原則、ネット配信で実施しました。

ネット配信授業に、学生たちはどんな気持ちで取り組んだのでしょうか。本学は、学生たちのリアルな声を集めるために、6月と10月にWEBアンケートを実施し、オンライン化した授業のもとの学びの様子や生活状況について調査しました。その結果、「分からないことを誰にも質問できず、一人で悩んでいる」「家で一人でパソコンに向かっていて、気が滅入りそう」といった不安の声だけでなく、「自分のペースで勉強できる」「動画を繰り返し視聴できる」と好意的な意見も寄せられました。このような授業のオンライン化に対する評価の違いは、何によって生じているのでしょうか。ここでは、第2次調査「コロナ禍における授業に関するアンケート調査」の学部生の回答データ(全正規学生を対象に、2020年10月1日~8日にWEB調査で実施。有効回答数1,882件、有効回答率7%)にもとづいて検討していきます。

ネット配信授業への参加実感のカギは、教員との信頼関係? それとも、学生自身の主体性?

春学期の授業が原則、ネット配信授業に切り替わったこととともない、学生たちが履修登録したときからシラバスに記載されていた授業方法や成績評価方法などにも変更が生じました。それらの変更点について、授業担当者から丁寧な説明を受けたと、調査回答者のうち

約4割が感じたようです。教員からの丁寧な説明は、学生にとって、授業に関する不安を和らげ、学習意欲の維持や教員との信頼関係の醸成につながったかもしれません。

また、ネット配信授業に対して、自発的に積極的な意味を見出した学生もいました。回答者の約2割が、ネット配信授業が自力で理解できるように勉強に取り組むきっかけ・後押しになったと答えています。一方で、残り8割はネット配信授業を主体的に学ぶきっかけとらえていませんでした。このように、多くの学生が、ネット配信授業に受け身の姿勢で臨んだことがよみとれます。

ネット配信授業に対する2種類の姿勢(教員からの説明の受容、学生自身による主体性への気づき)を組み合わせて、タイプ分けしました(図1)。最も多かったのは、ネット配信授業について、教員から丁寧な説明を受けたとは実感できず、主体的に学ぶ機会とは思えなかった学生で、回答者の49%を占めます。約半数が心の準備が整わないまま、「戸惑い」を抱えてネット配信授業を受講していた可能性があります。

対照的に、一見するとピンチに見える状況をチャンスととらえ、自分なりに「納得」のいくかたちで意味づけることができた学生もいました。教員から丁寧な説明を受けたと感じ、ネット配信授業を主体的に学ぶ機会につながると考えた学生は12%でした。なかには、教員からの説明が十分得られたと実感できなくても、ネット配信授業を主体的に学ぶ機会だと「前向き」ととらえた学生もいました(8%)。教員から丁寧な説明を受けたものの、ネット配信授業を主体的に取り組むきっかけととらず、「受け身」の姿勢だった学生は約3割でした。

上記の4つのタイプそれぞれの春学期の授業への参加実感は、高い順から「納得」タイプ、「前向き」タイプ、「受け身」タイプ、「戸惑い」タイプとなりました(図2)。このうち、「納得」タイプと「前向き」タイプ

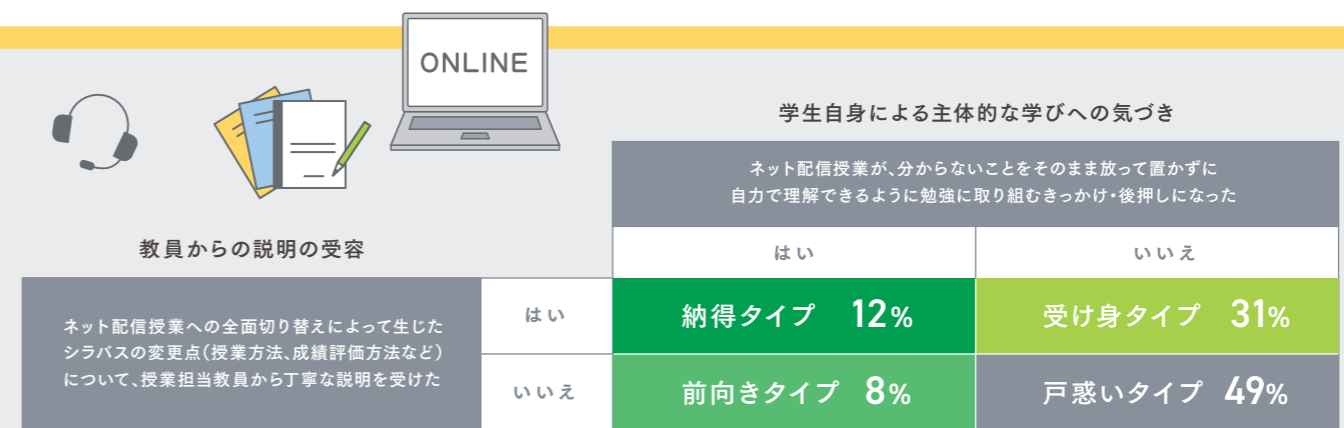


図1 ネット配信授業を受講する姿勢の4つのタイプと構成比

の授業参加実感はほぼ同じで、回答者全体の授業参加実感(39%)を大きく上回りました。このことは、ネット配信授業への参加実感は、シラバスの変更点について教員から丁寧な説明を受けたかどうかにかかわらず、学生自身が主体的な学びの姿勢をもつかどうかによって左右されることを示唆しています。講義動画や、資料・教材に目を通すだけといった受け身の姿勢でネット配信授業に取り組んでいても、授業に参加したという手応えは得られにくいといえるでしょう。

ところで、シラバスの変更点について教員から丁寧な説明を受けることは、授業への参加実感に何も影響しなかったのでしょうか。そんなことはありません。「受け身」タイプも「戸惑い」タイプも、ネット配信授業を主体的に学ぶきっかけととらえていませんが、教員から丁寧な説明を受けたと感じている「受け身」タイプのほうが、「戸惑い」タイプに比べて、授業参加実感は高くなっています。学びへの主体性を育む過程にある学生たちにとっては、シラバスの変更点に関する教員からの丁寧な説明が、戸惑いを和らげ、教員への信頼感を高め、授業参加実感を下支えする役割を果たしたと考えられます。

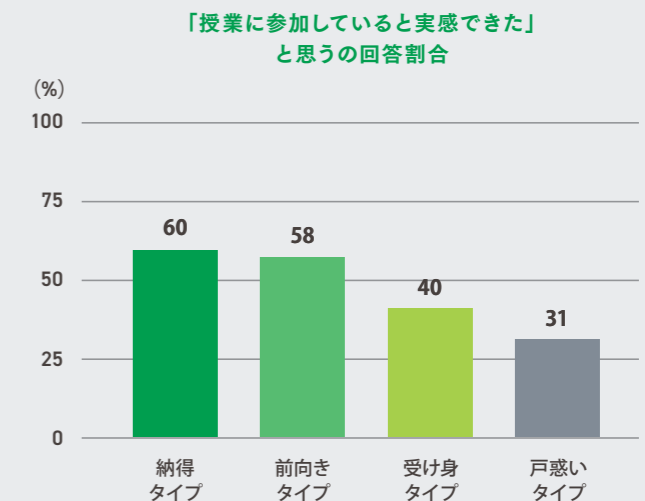


図2 タイプ別に見た授業参加実感